

運用先市場の状況

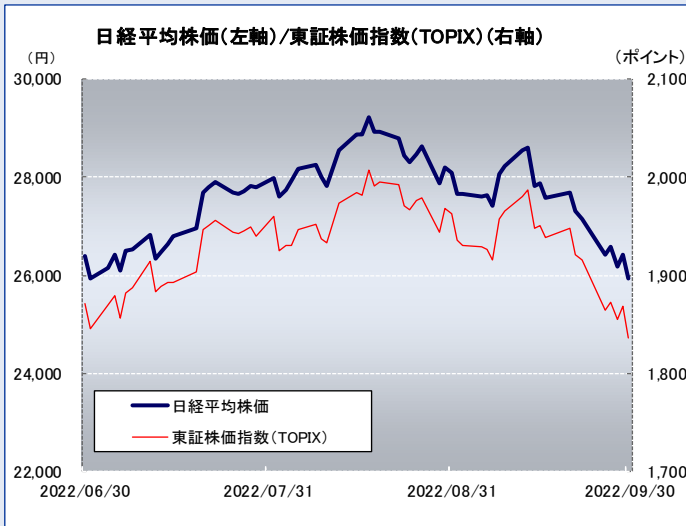
国内株式市場および国内債券市場 2022年7月~9月

作成基準日 2022年9月30日

○国内市場

・株式市場

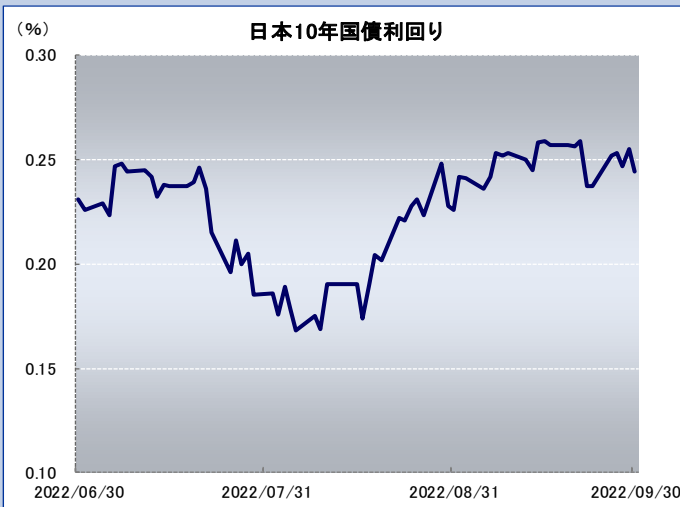
7~9月を通して見ると、国内株式市場は下落しました。
 7月、株式市場は上昇しました。原油価格の大幅下落に加え、参院選で自民党が圧勝したことや米ドル高・円安の進行が好材料となりました。月後半には、FRB(米連邦準備制度理事会)議長が今後の利上げペースに慎重な姿勢を示し、押し上げ要因となりました。
 8月、株式市場は上昇しました。米国の物価指標にインフレ圧力緩和の兆しが見られたことや、中国の利下げなどが好感されました。しかし下旬には、FRB議長が利上げ継続によるインフレ抑制への強い姿勢を明確にしたことが嫌気され、下落しました。
 9月、株式市場は下落しました。月前半は、欧米中銀による今後の利上げの織込みが進んだほか、原油価格が下落したことなどから、持ち直す局面がありました。しかし、米国で物価指標が上振れしたことなどから、下落に転じました。加えて、英国で大型減税発表により財政悪化懸念が台頭したことなどを背景に欧米で長期金利が急上昇し、株式市場は日本も含めてグローバルに大幅安となりました。



(出所) Bloombergデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

・債券市場

7~9月を通して見ると、国内の長期金利(10年国債利回り)は小幅に上昇(債券価格は下落)しました。
 7月、長期金利は低下しました。下旬に米国で経済指標の悪化が相次いだことから景気悪化への懸念が急速に高まり、長期金利は低下しました。
 8月、長期金利は上昇しました。FRBの強いインフレ抑制姿勢などから、日本も含め世界的に長期金利は上昇基調となりました。月後半には、欧州でもインフレ懸念が強まり欧米の長期金利が上昇幅を拡大し、国内の長期金利も上昇しました。
 9月、長期金利は小幅上昇しました。各国の中央銀行が大幅な利上げを継続、国内長期金利も日銀の許容するレンジ(0±0.25%)の上限近辺まで上昇しました。日銀のイールドカーブコントロール(長短金利操作)により長期金利の上昇は抑えられましたが、超長期金利は大幅に上昇しました。



(出所) Bloombergデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

運営管理機関：三井住友海上火災保険株式会社 加入者専用コールセンター 0120-401-841

平日(月~金) 9:00~20:00 土日9:00~17:00 (祝日・振替休日・年末年始等は休業させていただきます。)

- 当資料は、確定拠出年金の運用指図を行うために参考となる情報の提供等を目的としたものであり、運用方法に係る勧誘等を目的とするものではありません。最終的な運用指図については、お客さまご自身の判断で行ってください。
- 当資料は、作成日において信頼できると判断した諸データに基づいて作成したものです。その情報の正確性、完全性を保証するものではなく、また、今後の成果を保証・約束するものではありません。
- 当資料の内容について、無断で使用、転用、複製することを禁じます。

運用先市場の状況

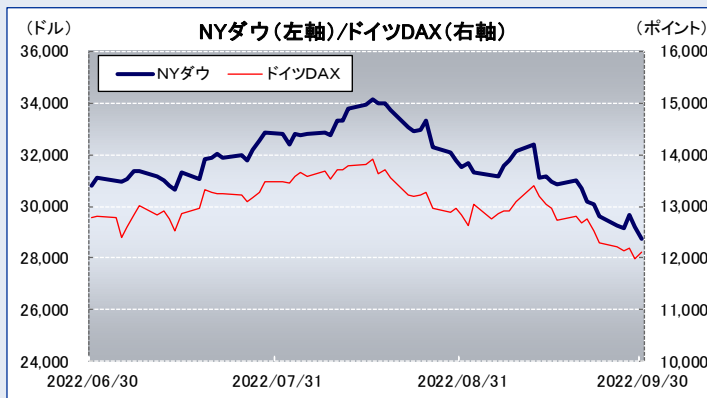
外国株式市場、外国債券市場および為替市場 2022年7月~9月

作成基準日 2022年9月30日

○外国市場

・株式市場

7~9月を通して見ると、欧米の株式市場は下落しました。
 7月、米国株式市場は上昇しました。FRB議長が今後の利上げペースに慎重な姿勢を示し、押し上げ要因になりました。
 8月、米国株式市場は下落しました。FRB議長が利上げ継続によるインフレ抑制姿勢を明確にしたことが嫌気されました。
 9月、米国株式市場は下落しました。物価指標が上振れしたことに加えて、英国で大型減税発表により財政悪化観測が台頭したことなどが懸念され、大幅安となりました。
 欧州市場も、下落しました。ウクライナ情勢を受けたエネルギー調達懸念のほか、ECB(欧州中央銀行)の利上げ、英国やイタリアの政治的不透明感などが下押し要因になりました。

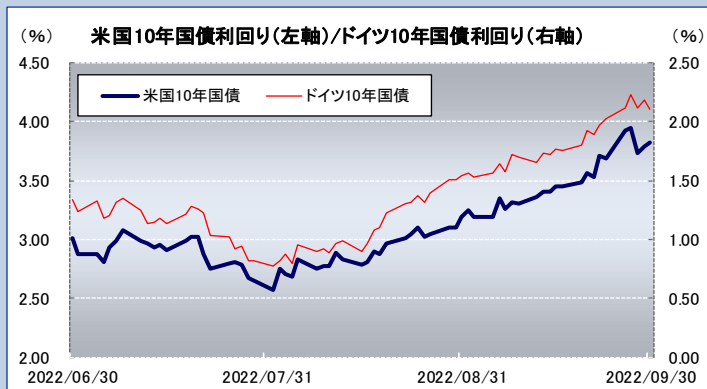


(出所) Bloombergデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成



・債券市場

7~9月を通して見ると、欧米の長期金利(10年国債利回り)は上昇(債券価格は下落)しました。
 7月、米国では長期金利が低下しました。FRB議長が今後の利上げペースに慎重な姿勢を示し、金利が低下しました。
 8月、米国の長期金利は上昇しました。FRB議長が利上げ継続によるインフレ抑制姿勢を明確にし、金利が上昇しました。
 9月、米国の長期金利は上昇しました。物価指標の上振れから金融引き締め長期化が懸念され、金利は上昇しました。
 ユーロ圏でも、長期金利は上昇しました。米金利の上昇、ECBの利上げに加え、英国で大型減税発表により財政悪化懸念が台頭して金利が大幅に上昇したことなどが影響しました。

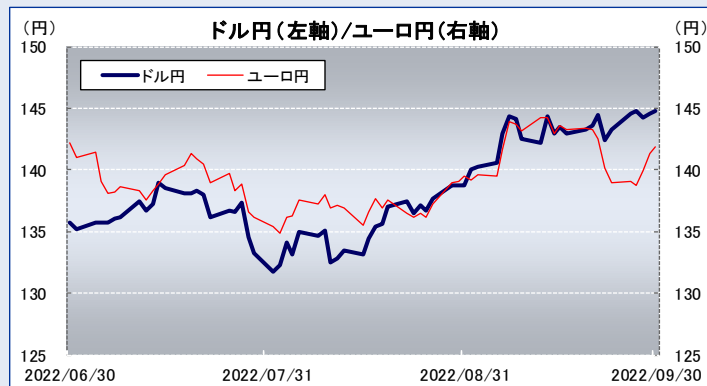


(出所) Bloombergデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成



○為替市場

7~9月を通して見ると、対円で米ドルは上昇、ユーロは小幅に下落しました。
 7月、米ドル/円は、米国の利上げペースが今後鈍化するとの思惑などから、米ドル安・円高となりました。
 8月、米ドル/円は、米ドル高・円安となりました。FRB議長が利上げ継続に積極的な姿勢を示し、米ドル高となりました。
 9月、米ドル/円は、米ドル高・円安となりました。日米の金利差拡大などから米ドル高・円安が進みましたが、政府・日銀の為替介入により、急激な円安に歯止めがかかりました。
 ユーロ/円は、日欧の金利差拡大やウクライナ情勢を受けたエネルギー供給と景気への不安などが影響するなか、小幅のユーロ安・円高となりました。



(出所) Bloombergデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成



運営管理機関：三井住友海上火災保険株式会社 加入者専用コールセンター 0120-401-841

平日(月~金) 9:00~20:00 土日9:00~17:00 (祝日・振替休日・年末年始等は休業させていただきます。)

- 当資料は、確定拠出年金の運用指図を行うために参考となる情報の提供等を目的としたものであり、運用方法に係る勧誘等を目的とするものではありません。最終的な運用指図については、お客さまご自身の判断で行ってください。
- 当資料は、作成日において信頼できると判断した諸データに基づいて作成したものです。その情報の正確性、完全性を保証するものではなく、また、今後の成果を保証・約束するものではありません。
- 当資料の内容について、無断で使用、転用、複製することを禁じます。